

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

本校は、高い学力と高邁な精神を培い、21 世紀を担う有為な人材の育成をめざす。

- 1 良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献する、リーダーシップを取ることのできる人材の育成を図る。
- 2 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努め、他校をリードする先進的な学校づくりを展開する。
- 3 「入りたい」「入ってよかった」、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。
- 4 地域の教育センター的役割を果たしうる、地域の期待と信頼に応える「開かれた学校」をめざす。

## 2 中期的目標

## 1 学力の向上と規範意識の醸成

(1) 進学を重視した規律ある学校として大阪を代表する全日制普通科単位制高校の確立

- ア 生徒のニーズの変化に対応し、進路目標の実現に向け常に適切にカリキュラムや指導方法の研究を行なう。
- イ 本校での学習活動のみで、国公立大学難関私立大学への合格に必要な学力を育成する。

※ 29 年度においてセンター試験受験率 90%以上、現役進路決定 90%以上、国公立大学合格者現役 20%以上をめざす。

(2) 「規範なくして学力向上なし」の合い言葉で、安全で安心して学校生活に取り組める環境を確立するとともに維持・発展させる。また、人権意識豊かな人間形成に努める。

- ア 学習指導・生徒指導・進路指導などの学校経営において他校をリードし、他校の範となりうる工夫、実践に努める。
- ※ 29 年度においても一日平均学習時間を府内トップレベルにし、遅刻者数府内最少を維持する。

(3) グローバル社会の中で生きていく人として、生徒指導や特別活動などをおしてマナーやコミュニケーション能力やリーダーシップを育む。

## 2 先進的で他をリードする学校づくり

(1) 教職員の指導力向上をめざし、授業改善に努めるとともに生徒指導、進路指導面においても指導力の向上をめざす。

- ア 府内外の先進校への教師派遣（年 4 名以上）。

(2) 組織的な協働体制による学校運営の確立

- ア 教職員全員で組織的に校務に取り組めるよう効果的・効率的な組織体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に、有効に対応できるようその維持・改善に努める。また、教員がより多くの時間を生徒対応に使うことができるよう業務のスクラップ&ビルドを追求する。

- イ 日々の教科指導や講習などにおいても、さらに組織的な対応が可能となるよう「槻の木 教科 can-do リスト」の具体化を図る。

※ 29 年度をめどに ICT の活用により、事務処理時間や職員会議における情報伝達時間の削減をめざす。

(3) 次代の学校経営の担い手になりうる教員の育成に努める。

## 3 保護者・地域から信頼される学校づくり

(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入れたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」と地域に信頼され誇りにされる学校づくりを続けていく。学校説明会参加者数の維持に努める。

(2) 本校のウェブページを活用するなど、地域の教育センター的役割を果たしうる、情報の発信に努め地域の信頼に応える。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <p>・生徒の自己診断結果…「授業全体が分かりやすい」80%（昨年 78%）「授業の難易度が適切である」80%（昨年 79%）「先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる」85%（昨年 87%）と昨年度から変わっていない。</p> <p>・教職員の自己診断結果…「参加体験型の学習を行っている」69%（昨年 79%）「学習方法や内容について工夫している」88%（昨年 92%）と昨年度より下がっている。若手教員が増える中、更なる授業改善の研修や新たな取り組みが必要である。</p> <p><b>【生徒指導】</b></p> <p>・生徒・保護者の自己診断結果…「規律を守った生活を送っている」生徒 93%、保護者 98%とほぼ昨年度と同じ。「学校生活についての先生の指導は納得できる」63%（昨年 70%）と一部下がっているが、「先生は、責任をもって、授業やその他の仕事に当たっている」が生徒 89%（昨年 91%）保護者 84%（昨年 85%）と概ね全体的には肯定的に捉えられている。</p> <p><b>【学校全体・学校運営】</b></p> <p>・生徒・保護者の自己診断結果…「充実した学校を過ごしている」85%（昨年 87%）保護者 92%（昨年 92%）、「入学して良かった生徒」73%（昨年 77%）保護者 92%（昨年 92%）と生徒の学校に対する肯定率が若干下がっている。保護者からの理解は受けているが、さらに学習指導等も含めて授業に対する充実を図る必要がある。</p> <p>・教職員の自己診断結果…「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」75%（昨年 61%）「教職員の相互理解と信頼関係がある」96%（昨年 81%）と上昇した。教職員の協働体制は構築できている。</p> <p>しかし、人権教育等の「人権尊重に関する課題や指導方法を話し合っている」58%（昨年 72%）が下がり、前述の学習指導等と同様に研修など継続的な学びが不足している事への反省が必要。</p>	<p><b>【第 1 回（8/29）】</b></p> <p>○アドミッションポリシーと新入生の実態などについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特色のないアドミッションポリシーの多い中、槻の木高校のものは分かりやすく、等身大である。問題解決型能力の構築のために、どのようなモデルを考えるか課題である。</li> <li>・新入生の実態について、圧倒的多数が本校の魅力を感じて入学している。槻の木高校で真面目に頑張りたいと思っている生徒が多い。さらに、アクティブラーニング等で思考力・判断力・表現力を身につけられるようにしてほしい。</li> <li>・その他には、18 歳からの選挙権の指導についてはどうするのか？他の公立にない、さらなる改革を期待しますなどの意見がありました。</li> </ul> <p><b>【第 2 回（10/17）】</b></p> <p>○槻の木高校の活動中間報告とそれに対する意見や助言</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員について…大阪府の高等学校の教員の授業の展開は構造的でなく、新しい手法に保守的ではないか（伝統芸能化）している。どの学校も授業力の向上が必要。</li> <li>・授業力向上について…個人の研鑽に任せるだけでなく揺さぶること。新しい手法を学ばせる。風通しの良い職場が必要である。本校は生徒が態度に表さないのが、授業力がわかりにくい部分がある。ペアリングしてベテランから若手にレクチャーしてはどうか？</li> <li>・その他…授業アンケートの結果を楽しみにしている。授業力向上には仕組みや風土など個人だけに頼らない全般的なアプローチを試してみればどうか。</li> </ul> <p><b>【第 3 回（3/19）】</b></p> <p>○学校教育自己診断について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者、教職員が他校と比べて、これほど高い肯定率や達成度はない。</li> <li>・しかし、1 年生が若干、学習指導や相談等で満足度が下がっている。それは、授業等への期待度が上がっているからではないか。授業内容が生徒の力に合致しているかどうか検証する必要がある。</li> <li>・学校運営に対する教職員の高い肯定率は、チームワークや意思疎通によるものと思われる。学習指導面の肯定率が下がっているため、さらなる取り組みが必要である。</li> </ul> <p>○さらなる教科教育向上の模索</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導や教科指導で向上を図る…自校オリジナル教材、教科別 O J T の取り組みなど</li> </ul>

## 府立槻の木高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の向上と規範意識の醸成	(1) 学習意欲のさらなる向上とより高い志を育む	ア・カリキュラムの検証を進めるとともに、社会の変化に対応した指導方法の実践的研究を行う。 イ・課題、予習、復習等による学習時間の維持とその定着を図る方策の検討を行う。 ウ・より高い志をもって進路に挑戦するよう、担任、進路担当、教科担当等学校全体での教員の研修および生徒面談の充実を図る。 エ・学校図書館の更なる活用などを通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 オ・職業観、勤労観育成のための取り組みを行うとともに、校内での大学個別説明会を行うなどして進路指導の充実を図る。	ア・講座選択者数などを参考に常に検証する。 ・指導方法の工夫改善集(案)の作成。 イ・26年度2年(10月)、平日68分、休日100分の平均10分増。 ウ・センター受験率80%以上、面談回数年間総数(約700回)の増加 エ・学校教育自己診断で図書館の活用75%以上の維持(H26:76%) オ・学校教育自己診断で進路指導に対する肯定的回答の90%以上の維持(H26:91%)。	ア・「総合的な学習の時間」の内容の見直し(○) ・指導方法の工夫改善集(案)は作成できず(×) イ・平成27年度2年(10月)平日72分、休日104分の約5分増。(○) ウ・センター受験率74%(×) ・面談回数年間総数 約880回(個人面談および国公立大学受験サポートによる)(◎) エ・学校教育自己診断で図書館の活用78%(◎) オ・学校教育自己診断で進路指導に対する肯定的な回答、本年度91%(◎)
	(2) 規範意識のさらなる向上	ア・遅刻数のさらなる減少に努める。 ・生徒の安全確保のため、自転車指導等交通安全週間などを設け、指導の充実を図る。 イ・学校美化や教室清掃に心がけ、学びの場としての学習環境整備に努める。	ア・学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」生徒・保護者95%の維持 ・日本スポーツ振興C申請件数の維持(H26:71件) イ・正門付近、校内等の美化 ア・参加生徒へのアンケート	ア・学校教育自己診断で「規律を守った生活を送っている」生徒95%(○)保護者98%(◎) ・日本スポーツ振興C申請件数の維持76件(◎) ア・韓国姉妹校交流参加生徒全員が肯定的(◎)
	(3) グローバル人材の育成	ア・姉妹提携校との国際交流等とおして、国際的な視野を育む使える英語力の向上を図る。		
2 先進的で他をリードする学校づくり	(1) 教員の指導力の向上	ア・校内研修の計画的実施、内容の充実を図る。 ・授業アンケート等の結果を踏まえ、教科として「can-doリスト」の達成に努める。 ・先進校への教員派遣を勧め、さらに先進校の取り組みの導入を図る。 ・生徒指導においては、生徒の変化を良く見極め、個々に応じた適切な指導ができるよう指導力の向上に努める。	ア・学校教育自己診断で、研修に係る肯定的回答95%維持。(H26:100%) ・「can-doリスト」及びそれに基づく「チャレンジシート」の定着。 ・先進校への派遣4名以上。 ・「生徒指導方針に共感」85%維持。(H26:89%)	ア・学校教育自己診断で研修に係る肯定的回答100%(◎) ・「can-doリスト」及びそれに基づく「チャレンジシート」の定着(△)「can-doリスト」と連携した新シラバス作成 ・先進校への派遣11名(◎)
	(2) より組織的で効率的な協働体制の構築	ア・職員朝礼やICTを活用し、教職員間の円滑な情報の伝達と共有を推進する。	ア・教職員間の相互理解についての肯定的回答80%の維持(H26:81%)。 ・校内組織の中期的改善についての検討会議を5回以上実施。	ア・学校教育自己診断で教職員間の相互理解についての肯定的回答96%(15%増加)(◎) ・校内組織の中期的改善の検討会議6回(○)
	(3) 若手教員の育成	ア・管理職、ベテラン教員による若手教員の校内研修を年5回以上実施する。	ア・実施回数、受講者による評価。	・スキルアップ研修8回実施(◎)
3 保護者・地域から信頼される学校づくり	(1) 子どもが「入りたい」保護者が「子どもを入りたい」そして「入ってよかった」「入れてよかった」学校づくりの推進	ア・進路、生活指導などで実績を積み、それを中学校、中学生・保護者、地域の方々に発信し、信頼にたる学校づくりを進める。 ・体育大会、文化祭、個人面談に加え、進路説明会などをできる限り多く開催し保護者の信頼をさらに得よう努める。 ・本館耐震工事や照度改善に取り組み、より安全な学習環境の充実に努める。	ア・「入って(入れて)よかった」生徒80%以上(H26:77%)、保護者90%以上(H26:92%) ・学校行事に参加したことがある85%以上(H26:86%) ・施設設備の学習環境面で満足できる。70%以上(H26:66%)	ア・「入って(入れて)よかった」生徒73%(×)保護者92%(○) ・学校教育自己診断で学校行事に参加してことがある87%(◎) ・学校教育自己診断で施設整備の学習環境面で満足できる68%(△)
	(2) 地域への情報発信	ア・学校のウェブページや槻の木 MANABI カフェの充実などにより地域の方に、学校のもつ情報を地域に還元する。	ア・MANABI カフェへの生徒、保護者地域の方の満足度80%以上 ・学校ウェブページの月10回以上の更新	ア・学校教育自己診断で学校は保護者や地域から意見を聞く機会を設けている83%(◎) ・学校ウェブページの更新(○)